

Japan Evangelical Theological Society

日本福音主義神学会

J·E·T·S・ニュース

発行所 〒170 東京都豊島区東池袋3-15-9 中央福音教会内

「日本福音主義神学会の創立十周年記念行事、神学研究会議等に参与するため訪日した私に、各所で示されました数々の御親切に対し、もう一度お礼を申し述べます(中略)今回、日本に於いて、福音の証言に皆様と共にあずかることができまして、本当に嬉しく思います。様々内容にわたりましたが、主キリストのため、また福音主義の目的遂行に対して、なんらかの恒久的なご奉



今回、当神学会の講師として、十周年記念行事にたずさわって下さったカール・ヘンリー師は、南カリフォルニア・フラー神学校での奉仕をも終え無事に帰宅されました。同師は、日本に於ける福音主義陣営の働きに大きな関心をもたれ、奉仕の意義を感じ、再度の来日の可能性をも示しておられます。さらに、滞日中に受けた温いおもてなしに対し謝意を表わし、次のようなお便りを寄せて下さいました。
(佐布記)

仕ができたのではないかと信じています。
今、韓国、日本、および南カリフォルニアを巡る六週間の旅程をヘンリイ夫人と共に終えて帰宅しました。主イエスの御名によって、皆様から贈られた贈物を家内に手渡したところ、信じられないような喜びようでした。家内と私に対する結構な、予期しない贈物に感謝申し上げます。既に、私も大事にして用いさせていただいております。(セイコー・コツ時計、小型テーブレコード一式を贈りました。ヘンリー夫人にはパール・ネックレスが贈られました。註)

十周年記念行事の実施に際しまして、皆様のお祈りと御協力を賜わり心から御礼申し上げます。
福音宣教の緊急性と教会建設の重要な使命の遂行に當るものとして、諸活動の充分な評価をするいとまもありませんが、当学会の着実な奉仕がやがて主にあって結実を見ることができます。今後ができると信じております。今後の御協力をお願い申し上げます。

成果は主にゆだねて

理事長 佐布正義



福音の前進に貢献

カール・ヘンリー

主に在る偉大な奉仕にたずさわる皆様の上に神の祝福が豊かにありますように祈ります。

日本に於て、福音主義の成長と伝透のしるしを見て意を強くし、また新しい躍動を感じて喜んでいるものです。

今回の神学会議の主題「福音主義の立場に立った聖書解釈の諸問題—その方法と展開」にそつてシンポジウムが行われた。各発表者による原稿（レジメ）は、プリントされ、一冊にまとめられ、登録の際に、参加者全員に配布された。第一のシンポジウムは、西満氏の司会で「聖書解釈と福音主義的原理」について、服部嘉明氏、舟喜信氏、西満氏（千代崎秀雄氏欠席のため）がそれぞれ、伝統的な本文中心主義の解釈の確認すべき点と、方法及び適用において問題と思われる点について発表があり、第二のシンポジウムでは、丸山忠孝氏が司会をつとめ、「聖書解釈とその周辺（考古学、言語学、地誌学）」という主題をめぐつて行われ、久保田周氏（石丸新氏欠席のため）、津村俊夫氏、鍋谷堯爾氏が、聖書解釈は、近代の発達したオリエント学、考古学、言語学（特に比較言語学）及び地誌学を、無視したり、回避することなく、正しい解釈のためにはむしろ注意深く、しかし積極的な適用を必要とする点に関して発表した。第三のシンポジウムは、泥谷逸郎氏の司会で、「聖書解釈と

福音主義教会の中での画期的なところみであったことを評価する。

二、主題講演については、具体的な文脈の中での質疑がなされれば、さらに良かった。

三、神学会議の意図が不明確のように感じられた。たとえば、ステートメントなどが提出されれば、單なる神学会議と異った面が強調されただと思われる。

（秋田市、ルーテル同胞聖書神学校長）

平位全一

主講師 C・ヘンリー博士が講演（啓示と文化）の中で、この問題にたいする福音主義的立場を弁証されつつ、諸大学における眞の聖書的立場の欠落をなげいておられたのが印象的であった。シンポジウムにおける、諸講演者の福音主義的立場にたいする眞実な追究の態度に謝意を表し、これからも学会の発展を祈ります。

（佐賀インマヌエル教会牧師）

またの機会に更に深く、広く論じらなければ幸いである。



参加者の声

(敬称略)

原理・周辺・展開 シンポジウム総括

コーオディネーター

服部嘉明

小早川次雄

岡部高明

一、福音主義教会の中で、画期的なところみであったことを評価する。

二、主題講演については、具体的な文脈の中での質疑がなされれば、さらに良かった。

三、神学会議の意図が不明確のように感じられた。たとえば、ステートメントなどが提出されれば、単なる神学会議と異った面が強調されただと思われる。

（秋田市、ルーテル同胞聖書神学校長）

平位全一

主講師 C・ヘンリー博士が講演（啓示と文化）の中で、この問題にたいする福音主義的立場を弁証されつつ、諸大学における眞の聖書的立場の欠落をなげいておられたのが印象的であった。シンポジウムにおける、諸講演者の福音主義的立場にたいする眞実な追究の態度に謝意を表し、これからも学会の発展を祈ります。

（佐賀インマヌエル教会牧師）

またの機会に更に深く、広く論じらなければ幸いである。

一、神学会の10年間の活動の結果としての今回の会議を感謝し、また、日頃神学誌のみによる交流であった方々と深い交わりを持てたことを感謝します。

二、C・ヘンリーアー師の講演には非常に啓発されたが、さらに福音主義の立場からの積極的な発言がもう少し聞ければ良かった。

三、シンポジウムは、それぞれ関心のある問題に分け、少人数グループであれば、より突っ込んで話し合う機会となつたのではないかと感じた。（福音伝道教団、中央日本聖書学院院長）

濱田全一

濱田晶子

ともすると学的水準を強調しがちな今日のキリスト教関係の学会の中で、今回の会議が終始福音主義を貫き、学問と信仰の接点を折りのうちに求めておられた姿に感銘を覚えました。また日頃お名前を伺つておりました先生方に直接お逢いできましたことも感謝でした。底冷えのするチャペルでの講演とシンポジウムに啓蒙され、心は燃やされ山を下りることができましたことは何よりの喜びでした。このような企画をして下さった委員の方々に厚く御礼申し上げます。

（東京キリスト教短期大学教授）

参加者名簿

敬
申
達
順
略

參考資料

教派別職業別一覽表

守、後藤茂光、国吉守、吉岡繁、小林和夫、五島勝、武田忠男、カール・ヘンリー
以上百一名

尾山令仁、大山武俊、伊藤淑美、服部嘉明、野口誠、丸山忠孝、坂本博舟喜慈郎、久保田周、大滝信也、森

作常生、牧浦成宜、土橋慶子、畑野順一、中村敏、宮村武夫、Sフランクリン、津村俊夫、森田聰、木村幸広、凌晶子、Lピーター・ソン、鍋谷堯爾、奥川泰弘、田端武、Mソールフス、Gラーエン、安達賢二郎、吉田暢、千金町子、谷下和次、海老原道雄、小嶋彬夫、西満、今野孝蔵、村瀬俊夫、佐布正義、横山武、木下信行、尾城秀雄、荒木寛二、丸山光J・シユワブ、三森春生、樋口信平、

Kスナイダー、高見一男、泉田昭、
本田弘慈、生田嘉文、Eミュラー、
小島正義、岡部高明、佐竹十喜雄、
高野闘昭、Eノーデストロム、藤井
力、中沢啓介、本間正巳、増永俊雄、
滝浦滋、田辺滋、仁司延之、山城晴
夫、守部喜雄、伊東正道、小助川次
雄、田村英典、泥谷逸郎、岸田聰、
舟喜信、大田和功一、岸義絵、柿谷
正期、桑原五郎、小山田格、高本康
生、山口昇、宇田進、三川献児、大
島義隆、関口尚子、平位全一、石橋
久子、松元緑、矢代博常、村井優人
高木寛、込尾隆義、菩提寺万里、村
上隆一、Pペイン、高橋久之、中島



キリスト者の 社会的責任

〔カール・ヘンリーア著・日本福音主義神学会訳編〕

著者は序文で「福音主義者は、社会正義よりも伝道の重荷をより着実に担ってきた」とし、「福音主義陣営内にいまだに見られる社会的立証に対する軽視の姿勢は、悲劇的で高価な失策となる」と判断し、その結果は、「中心的なことと見ている伝道による立証そのものを制約することとなる」とかなり強い姿勢を打ち出す。

著者の言う「福音主義陣営」また「福音主義的プロテスタンント」が福音宣教と救靈により強い関心を持ち、人権問題など社会正義の強調の面を軽視してきたのではないかとの「苦悶に満ちた憂慮」を表明しようとす

るのか、本書の中心テーマであり、この命題は、日本の福音主義にとつて重要な文献であろう。

米国の福音主義陣営を代表する言論誌「クリスチヤーニティ・ツディー」を創刊し、一九五六年から六八年までその編集長の任にあつた人。いわば福音派のスポーツマンである。編集者の一人宇田進氏の「後記」に

(いのちのことば社) 東京都新宿区
信濃町六・B6判一八四頁・一二〇円
○円・テ120円)

の概要も、それぞれの講演者によつて書き直されて掲載される予定になつています。

その他、論文が四篇掲載されるはずです。それらの主題は大体次の通りです。但し題名は多少違ってくる

「コロサイ書におけるキリスト論」
五島 勝
春名純人
上沼昌夫
「キリスト教哲学」
「聖書の救済史」
「ボールティリッヒにおける赦し」

今回は都合により書評、文献紹介
は割愛いたします。それでも普段の
ものよりも多少部厚いものになると
思います。御期待下さい。

義神學
第十一號紹介

第十一号紹介

福音主義神学第十一号は十周年記念号に統一して充実した内容で発刊される予定です。その第一の理由は、

一月二十一日三日芳城山荘で行われたカール・ヘンリー博士の講演が

お詫びされて掲載されることになつた
からです。これは出席した方にとつ

ても、出来なかつた方にどつても嬉しいことだと思います。また、同じ

時になされたシンボジウムⅠ「聖書
釈義と福音主義的原理」、Ⅱ「聖書
釈義とその周辺（考古学、言語学、
地誌学）」、Ⅲ「聖書釈義と説教」

収支決算書

(単位 円)

収入の部		支出の部	
全国・東部		全国・東部	
献金(1978年)	247,500	広報・事務費	277,725
献金(1979年)	484,000	研究会議経費	277,212
席上献金	132,281	天城山荘支払	909,800
J P C 献金	40,000	講演会会場費	11,000
研究会議登録費	117,000	講師滞在費	58,200
研究会議参加費	1,452,900	講師プレゼント費	60,000
雑収入	20,020	講師歓送会費	68,600
合 計	2,493,701	記念会誌代(No10)	700,000
西部		ニュース発行費	50,000
神学校負担金	125,000	実行委員会費	36,750
献金	131,550	残金	44,414
合 計	256,550	合 計	2,493,701
総 合 計	2,750,251	西部	
		会場費	6,500
		広報・事務費	45,930
		講師交通費	30,000
		講師プレゼント費	20,000
		講師滞在費	23,160
		歓迎準備費・他	15,040
		西部活動諸費	100,000
		残金	15,920
		合 計	256,550
総 合 計	2,750,251	総 合 計	2,750,251

十周年記念事業のために御協力をありがとうございました。必要は豊かに満たされました。心より御名を崇めています。深い感謝とともに「会計報告」と「献金者御芳名」をお知らせ致します。

会計報告

献金者御芳名

(敬称略)

小島彬夫

一九七八年度

中野貞行、安藤伸市、服部嘉明、日本キリスト改革派灘教会、物井又雄、油井義昭、岡本益栄、水島恭愛、山下政勝、新納時行、奥川泰弘、蓮沼キリスト教会、開出寛、自由救済事務局、田頭政佐、齊藤孝志、吉田

教会

一九七九年年度

林春江、後藤牧人、青山輝徳、野口誠、大滝信也、松見睦男、久保田周、角本行巨、山崎光吾、久我山教會、丸山忠孝、日本基督神学校、中央聖書学校、日本バプテスト教会連合、小林金太郎、木下信行、奥川泰弘、清水則之、古本繁和、関西聖書神学校、増永俊雄、篠原国枝、イレイン・ノードストロム、ネオ福音診療所、蓮沼キリスト教会、植木英治、中島彰、中上常助、角本行巨、小嶋彬夫、高橋久之、ダビデ・モーア、小沢貞子、和泉福音教会、山本岩次郎、岡田稔、川嶋賢広、自然化粧医学会、田村勉、小島伊助、安藤伸市、泥谷逸郎、椎名町教会、国吉守、榎本勝夫、津山ルーテル教会、宇崎竹三郎、佐藤義行、練馬神の教会、阪基督教学院、清水氾、湊晶子

- 78.5.22 全国理事会 (No 1)
7.17 タ (No 2)
- 9.25 プログラム委員会 (No 1)
- 12.1 献金アピール発送 (No 1)
- 79.1.29 全国理事会 (No 3)
- 5.14 プログラム委員会 (No 2)
- 5.14 全国理事会 (No 4)
- 8.20 参加者募集の案内作成発行
献金アピール発送 (No 2)
11. タ (No 3)
- 12.23 クリストチャン新聞全面広告掲載
- 80.1.10 最終打合せ会
- 1.14 参加者の手引発送
- 1.21~23 神学研究会議
- 2.1 ヘンリー氏歓送会
- 2.25 反省、感謝会

神学研究会準備日誌

利康、成増キリストの泉教会、新谷春水、東京恩寵教会、石神井バプテスト教会、和泉福音教会、本田弘慈、津新町キリスト教会、神戸ルーテル神学校、西澤幸一、津山ルーテル教会中央福音教会、ナザレ兄弟社前田直治、軽井沢中央教会、榎原康夫、篠原国枝、弓山喜代馬、練馬神の教会日本基督バプテスト連合宣教団、古本繁和、東京恩寵教会、国際英語学校、佐竹十喜雄、齊藤明夫、久我山校、佐竹十喜雄、齊藤明夫、久我山治、軽井沢中央教会、榎原康夫、篠原国枝、弓山喜代馬、練馬神の教会日本キリスト改革派灘教会、物井又雄、油井義昭、岡本益栄、水島恭愛、山下政勝、新納時行、奥川泰弘、蓮沼キリスト教会、開出寛、自由救済事務局、田頭政佐、齊藤孝志、吉田教会

長い歩みでした。一九七八年度に選ばれた全国理事会が五月二十二日に十周年記念事業の一環として「神学研究会議」の実施を決定してから本番まで一年半の準備期間がありました。終つて反省感謝会が行われ、本ニュースが発行されるまでも三ヶ月かかり、講演とシンポジウムの発題が会誌に掲載されて発行される十一月まではまだ半年もかかります。

その間、委員の方々が奉仕で献身的にご尽力下さったお姿を拝見し、日本に福音を確実に浸透させることを知り、本会の将来と日本の教会の前途が明かるくなるのを感じました。その一端を担わせて預けたことを感謝しつつご報告にかえさせて戴きます。

編集後記 書記 大島義隆